



粟島の城ノ山から瀬戸内海の多島美を望む。  
(写真提供=三豊市)



# 訪れたいまち

## 第18回 香川県三豊市詫間町粟島

瀬戸内海の離島<sup>あわしま</sup>「粟島」では県と市が主催する「粟島芸術家村」の招へい芸術家が創作活動に打ち込む。島に移住したアーティストも活躍している。その芸術家たちを暖かく応援する島民がいる。そして、パブリックアーティスト(島民芸術家)が独自の活動を展開。芸術家たちが集うこの島の“魅力”とは…。



### 「塩飽諸島」二十八島

瀬戸大橋、児島・坂出ルートを渡る列車の窓に広がる瀬戸内の海。そこに浮かぶ美しい島々は、古より瀬戸内航路の要衝として、多くの文化を伝播する役割を担い、栄えてきた。戦国時代には塩飽水軍が活躍し、江戸時代には人名による自治が行われていた。

瀬戸大橋の近辺から西側の二十八島は「塩飽諸島」と呼ばれる。その由来は「塩焼く」あるいは「塩涌く」さまにある。

塩飽諸島二十八島は、現在、それぞれが香川県坂出市、丸亀市、多度津町及び三豊市の自治区にある。

### 「フルーツ王国みとよ」

三豊市は、平成18年1月に旧三豊郡の7町が合併し誕生した新市である。海、山、平野部がおのずと田園都市を形成するにふさわしい条件を備えている。一年中絶えることなくさま



フルーツ王国みとよ  
県外では入手が難しいめずらしい品種も。  
(写真提供=三豊市)

ざまなぐくだものゝが実をむすぶ「フルーツ王国みとよ」として県内外各地に知られる。そして、塩飽諸島の二つ「粟島」を有している。

粟島は、浦島伝説の玉手箱の煙が雲になったといわれる「紫雲出山」を頂く庄内半島の沖に浮かぶ。3つの小島が砂洲でつながつたプロペラ型で周囲わずか16kmの島である。

### 離島「粟島」の魅力をもっと知るのには島の芸術家

粟島へは、三豊本土の須田港から船でわずか15分。最初に迎えてくれるのは、何とも可愛らしいお地藏人形。この島のパブリックアーティスト松田さんが、海に浮かべる漁具のブイを顔に見立てて作った「ぶいぶい人形」である。

松田さんが粟島の魅力を体現している「ぶいぶいがーでん」が上新田地区にある。そこには沢山の人形や、「海未完成」を代表とする様々な作品が並ぶ。

「自分の住んでいる島の良さ、足元の良さに気付かなければいけない。土から、海からパワーをもらい、自分の





京の浜  
平家の落人がここから京の都を  
偲んだとも言われている。



松田悦子さん  
「島には作品の原石がたくさん  
あるんやで」と目を輝かせる。

「ぶいぶい人形」(松田さん作)



ぶいぶいがーでん  
入場無料。個人の庭なので  
マナーを守ってご覧ください。



『海 未完成』  
(松田さん作)  
「海に完成はない」として  
ネーミング。蔵を利用した  
大作。

## 粟島の魅力をアートで表現



麻生祥子さん(右)、  
石川県出身。  
佐々木類さん、  
埼玉県出身。  
粟島芸術家村で創作活動  
中の若手芸術家。



粟島芸術家村  
島の方々のサロンにも  
なっている。



小舟(左)、植物模様の  
ガラス(右)は作品のパー  
ツ。完成作品は「瀬戸内  
国際芸術祭2013秋」  
(10/5~11/4)の間、粟  
島で見ることができる。



海ほたる<sup>※3</sup>  
幻想的な光を放つ。(写真提供=三豊市)

- ※1 塩飽水軍…室町から江戸時代に瀬戸内を拠点に活躍したとされる水軍。
- ※2 人名…幕府から朱印状を授かり塩飽諸島(七島)を統治した水夫達を称する。
- ※3 海ほたる…体長3mmほどの発光性・夜行性の節足動物。5月~10月に幻想的な風景を目にすることができる。

力で島の魅力を切り開いていくことが大切」と、松田さんは創作活動の原点を教えてくれた。

活動スタイルは、「材料はひらう(拾う)こと、人の手を借りたり補助を受けたりすることは性に合わない、何でも自分の力でやること」。

そんなアーティストは、「雑草の花が愛おしい」と心の底から自然を慈しむ。そして「便利だったら島じゃない、みんな島の魅力に早く気づいてほしい」と語る。

**若手アーティストが「粟島芸術家村」で力だめし**

香川県と三豊市が主催する「粟島芸術家村」事業の招へい芸術家として入村した2人の若手アーティストが、今秋の「瀬戸内国際芸術祭2013」に向け創作活動に打ち込んでいる。

その一人、麻生さんは、三豊市の広報誌を見て応募した美術の講師。「粟島と小豆島の選択肢があったが、より小さな島に魅力を感じこの島に決めた」と動機を語ってくれた。

作物を覆うために使われる粗く織られた白い布で小舟を数百艘作って一艘の大きな船に見えるように配置し、また、水槽に洗剤を入れ、泡がさまざまに形を変える姿を見せる瀬戸内海を表現する構想。「島の方々が手の空いた時間に、手伝ってください助かっています」と島民の協力を喜ぶ

〈取材協力者〉



**藤田奈織美さん**  
三豊市政策部産業政策課。栗島でお会い  
する島民の皆さんに挨拶し、ふれあいを大切  
にする。島の魅力をとても理解する一人。  
<http://www.city.mitoyo.lg.jp>



**森本哲司さん(右)、臼山勇さん**  
香川県政策部地域づくり推進室。うどん県  
副知事の要潤さん(ポスター)は、三豊市出  
身、三豊ふるさと大使。  
<http://www.my-kagawa.jp/>



『アオリイカ』(森田さん作)



海から集めてきた珍しい  
モノが作品のテーマとなる。



**森田洋美さん**  
芸術家。埼玉県出身。夫は建築設計士(兼釣り  
人)。愛猫「タマス」(たます)が作品のモデル。

**瀬戸内国際芸術祭2013** <http://setouchi-artfest.jp/>

○瀬戸内海の島の文化や暮らしに出会う現代アートの祭典。2010年に第1回が開催され、  
今年、塩飽諸島の四島(沙弥島、本島、高見島、粟島)及び伊吹島が追加され、開催される。  
○国土交通省四国地方整備局及び四国運輸局は、「瀬戸内国際芸術祭実行委員会」の構成  
員として、本年の芸術祭に参画している。

**栗島芸術家村から島に移住  
したアーティスト**

2011年秋に栗島芸術家村に入  
り、4カ月間滞在した森田さんは、翌  
2012年1月に栗島に移住した芸  
術家である。

「4カ月間の島民とのふれあいで、初  
めて教わったことが沢山あった。そし

ている。「瀬戸内国際芸術祭への出品  
チャンスは、自分の力だめし。今後の  
活動にもつながる」と、創作意欲を燃  
やしている。

**滞在期間を延長して、  
秋の芸術祭への出展を目指す**

佐々木さんは、4年半の米国滞在中  
から帰国後、「日本は島国だった」こと  
に気づき、栗島芸術家村に応募。瀬戸内  
の島と決めたのは、「瀬戸内国際芸術  
祭2013」に向けた現地視察会に訪  
れた際、島の魅力を感じたからだ。

**栗島の本物の魅力とは！**  
多くの個性的なアーティストが集  
う栗島には、言葉では言い表せない魅  
力があふれる。その魅力を多くのアーティ  
ストが様々なかたちで表現しようとす  
る。島がそうさせるのかもしれない。  
風景も人も優しく、ゆつくり、ゆつ  
たり、のんびりと、日ごろの自分をリ  
セットできる自然豊かな癒しの島。本  
当の魅力は、訪れた者が肌で感じた  
ときに解るのかもしれない。

て、人の温かさを強く感じた。都会の  
雑踏がイヤで、もともと島に住みたい  
と思っていた。島の生活はとても快  
適。今まで描いた作品は標本的だっ  
たけど、島に来てからの作品は、空間  
的で色も変わったと言われます。これ  
からは、海を描きたい」  
そんな森田さんの作品「アオリイ  
カ」を、宿泊施設「ル・ポール栗島」で  
鑑賞することができる。

**●塩飽諸島などの離島支援について**

- 国庫補助航路の指定  
国土交通省では、栗島を含む塩飽諸島の4航路  
について国庫補助航路に指定し、地域公共交通の  
確保、維持を図っています。
- 全国の島々が集まる祭典「アイランダー2012」  
国土交通省は、全国の島が一体となって島の持  
つ自然歴史・文化・生活などのすばらしさをアピール  
し、交流人口の拡大、離島地域の活性化に資するこ  
とを目的とした「離島と都市との交流事業」を毎年、  
東京で開催しています。なお、栗島からも参加いた  
だいています。

**90年の歴史を閉じた海員学校が、栗島の海洋の歴史を伝える**

栗島は瀬戸内海の中央に位置し、天  
然の良港であったため、江戸時代から日  
本各地との交易で活躍した北前船で繁  
栄した。しかし、近代化がうまくいかず海  
運業は衰退。船で生計を立てていた島  
民の将来を考え、明治30年に日本初の  
海員養成校「栗島海員補習学校」が村立  
で設立された。

その後、郡立、県立の時代を経て、昭

和15年に国立の「商船学校」、昭和27年  
に「栗島海員学校」(旧運輸省所管)に改  
称され、日本の海運業界に多くの船員を  
送り出してきた。しかし、海運不況や外  
国人船員の増加で、昭和62年廃校とな  
り、90年余りの長い歴史に幕を閉じた。

その跡地は、栗島海洋記念公園として  
生まれ変わり、島のシンボルになってい  
る。



檜垣忠則さん(栗島海洋記念館)  
海員学校第9期卒業生。元船員。  
現在、栗島の海友会員として、島の歴史を伝える。

## MLITレポート

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

Reporter

四国運輸局  
企画観光部次長  
石橋 通



**「四** 国遍路」とは、讃岐(香川県)に生まれた空海(後の弘法大師、774年～835年)が修行を行ったと伝えられる八十八カ所の寺々(札所)を大師の足跡を訪ねて巡礼することをいいます。その起源は平安時代の修行僧ともいわれており、室町時代から江戸時代初めにかけて、一般庶民にも広がり、現在に至るまで絶えることなく続いています。徳島県の1番札所霊山寺から香川県の88番札所大窪寺まで四国遍路の全行程は、約1,400kmに及び、毎年多くの方が訪れています。

昨年はうるう年の「逆打ち」の年にあたり、88番札所大窪寺から反時計回りに霊場を巡り結願を目指す巡礼者が増えました。「逆打ち」すれば、霊場を巡っているとされる弘法大師と出会うことができ、よりご利益があるとか、道に迷うなど苦勞が多いため「順打ち」3回分のご利益が得られるとも伝えられています。

四国遍路には、決まったルールはありません。服装も手段も方法も自由です。目的も先祖供養や健康祈願、自分探しの旅と実にいろいろです。最近では、宗教的な目的のほか、健康増進やアウトドア、パワースポット巡りとしても注目を集めています。また、都会の喧噪や仕事のストレスを忘れる癒しの旅として女性にも人気です。そんな閑かなブームが続く、優しい時間に満ち溢れた四国遍路の旅を体験してみたいはいかがでしょうか。

**な** お、四国運輸局では、公共交通の利用促進や観光客の来訪促進を通じた四国の活性化に向けた取り組みとして、四国八十八カ所巡りの旅案内となるよう『四国88NAVI』を作成しています。列車や路線バス、観光情報などを掲載したこの冊子は、四国四県の東京事務所やアンテナショップ、四国各県の空港や主要鉄道駅などに広く配布していますので、是非、ご活用下さい。



冊子『四国88NAVI』



1番札所 霊山寺



13番札所 大日寺

『四国88NAVI』ホームページ <http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/kikaku/88navi.html>